# アメリカ空軍第４偵察飛行隊の横田飛行場への移転について

令 和 ８ 年 ５ 月

防　　衛　　省
外　　務　　省

## 背　景

- 我が国を取り巻く安全保障環境が厳しさを増し、周辺国の軍事活動が活発化する中、情報収集・警戒監視・偵察（ＩＳＲ）活動はますます重要。
- 特に、優れたＩＳＲ能力を有する米軍との協力は、我が国の安全確保の観点から極めて重要であり、米軍は、平成２６（２０１４）年以降、我が国周辺におけるＩＳＲ活動のため、グアムを拠点としつつ、米空軍の無人偵察機グローバル・ホークを日本に一時的に展開。
- 横田飛行場においても、令和５（２０２３）年５月以降、グローバル・ホーク３機を一時的に展開し、所要人員として約１００名規模を配置しているところ。（現在、グアムに一時展開中）

## 米側からの新たな情報

米側から次のとおり説明あり。

- 現下の安全保障環境を踏まえ、我が国周辺におけるＩＳＲ態勢を一層強化する観点から、部隊運用面の効率性や即応性等を総合的に勘案した結果、**グローバル・ホークを運用するアメリカ空軍第４偵察飛行隊をグアムのアンダーセン空軍基地から横田飛行場へ順次移転させる。**本年の夏から人員及び装備品の移転を開始する。

【本移転の概要について】

・配備されるグローバル・ホーク（ＲＱ－４Ｂ）は３機

・人員配置　約１５０名規模（従来の一時展開で配置されている約１００名を含むため、純増は約５０名規模）

・横田飛行場の面積や施設の拡張なし

・新たな施設建設は行わず、横田飛行場内の既存施設を活用し、必要な改修を行った上で使用

## 移　転　の　意　義

　現下の安全保障環境を踏まえると、我が国周辺地域における日米の情報収集・警戒監視・偵察（ＩＳＲ）活動を一層強化する必要があり、今般の部隊移転は、アメリカによる我が国防衛へのの揺るぎないコミットメントを示すとともに、日米によるＩＳＲ活動の強化をもたらす、我が国の安全保障にとって極めて有益なものと考えている。

## 地　元　へ　の　影　響

　横田飛行場において新たにグローバル・ホークが移転・運用されることになるが、
・当該機体については、これまでも一時的な展開をしていた機種であること
・騒音の影響は小さい機体であり、直ちに騒音の影響が大きく増加するものではないこと
・偵察用に開発された機体であり、非武装のアセットであること
などから、横田飛行場周辺に与える影響は大きく変化するものではないと認識している。
　しかし、今般のグローバル・ホークが移転・運用することはグローバル・ホークの横田飛行場への常駐による基地配備アセットの増強であると認識している。

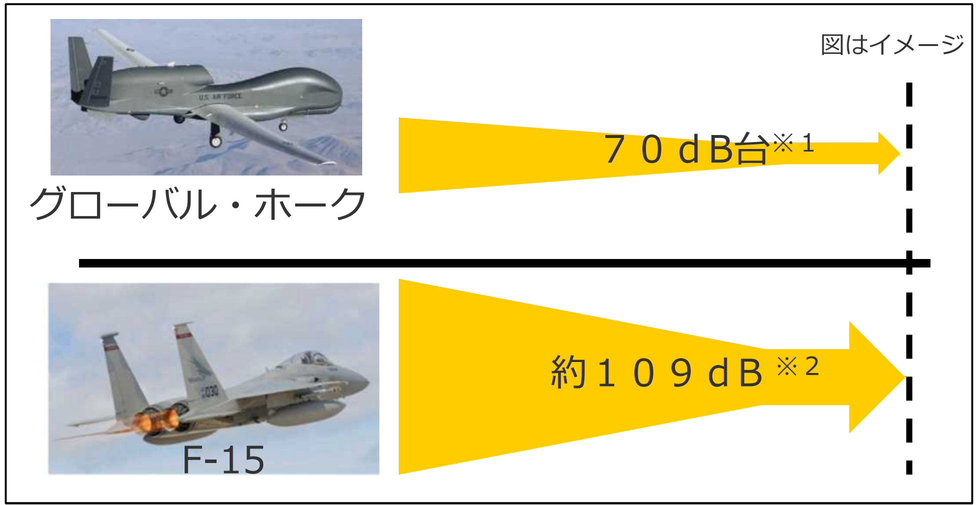
## 防　衛　省　の　取　組　み

　防衛省としては、我が国を取り巻く安全保障環境と、横田飛行場がおかれている状況を総合的に勘案すれば、今回のような、部隊、装備及び人員等の追加を含む横田飛行場の態様の変化はやむをえないものと認識している。
　引き続き、米側に対し、騒音規制措置を遵守し周辺住民に与える影響を最小限に留めるよう最大限努力するようしっかりと申し入れていくとともに、米側から得られた情報について関係自治体に対して可能な限り速やかに情報提供を行い、基地周辺住民のご負担が少しでも軽減されるよう、基地周辺対策等に引き続き取り組む所存である。

# 騒音について

- グローバル・ホークは、比較的小型の民間航空機に使用するジェットエンジンの派生型エンジンを使用していることから、戦闘機等に比べ、**周辺地域への騒音の影響は少ない**。
- 離着陸時の、**最大騒音レベル**は、**７０ｄＢ台**（三沢での実測値も７０ｄＢ程度）。

## 騒音比較




※１　航空自衛隊グローバル・ホークの騒音値（最大騒音レベル）を三沢飛行場の滑走路の西側の端に設置している航空機騒音自動測定装置により測定
※２　平成１９年那覇防衛施設局（当時）が計測

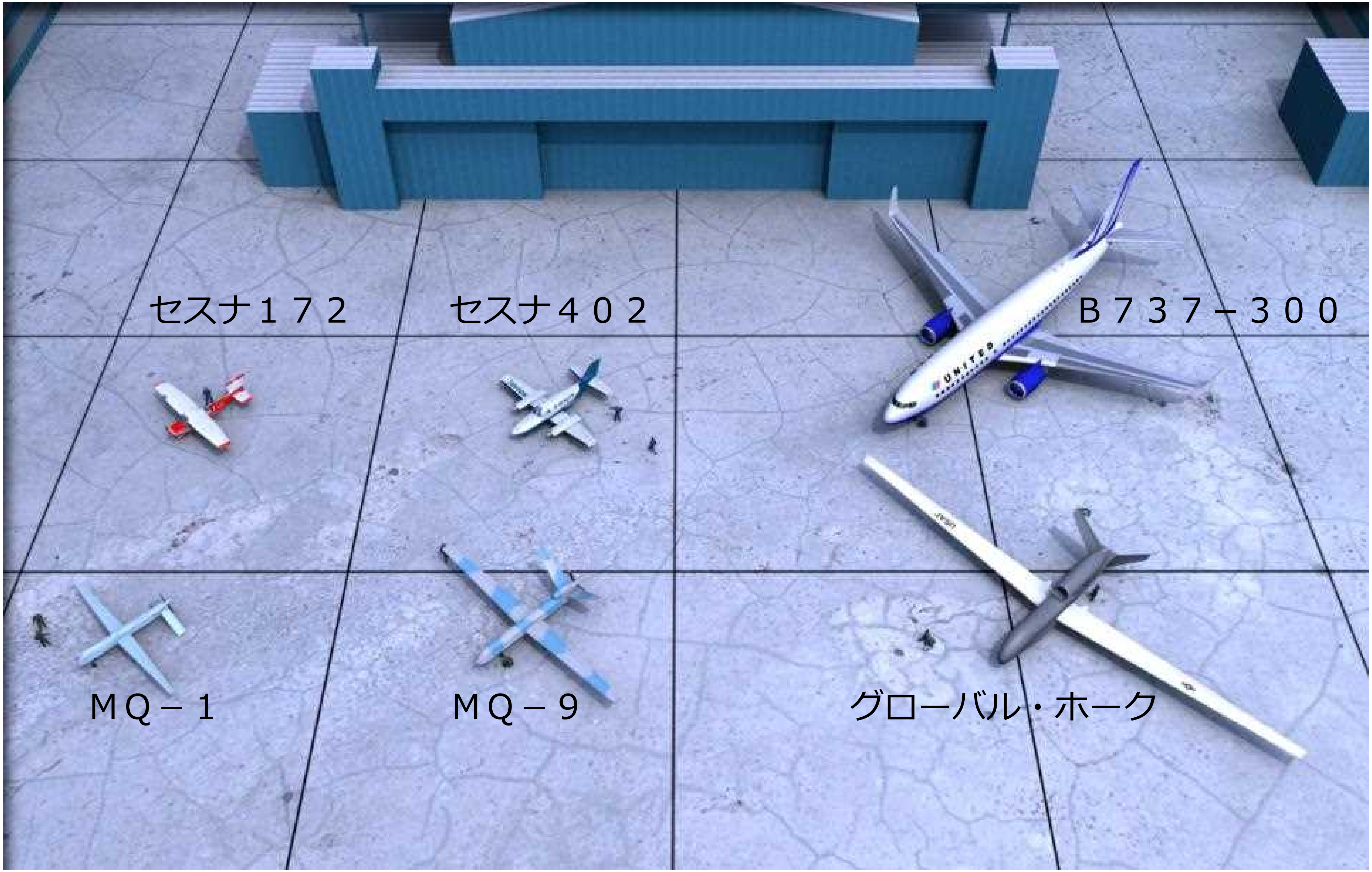
## 騒音の大きさの目安

| 騒音の大きさ | 目　安 |
|---|---|
| １１０ | ロックコンサート<br>自動車の警笛（前方２ｍ） |
| １００ | 電車通行時のガード下 |
| ９０ | 騒々しい工場内<br>怒鳴る声 |
| ８０ | 地下鉄電車内<br>バス車内<br>電話が聞こえないレベル |
| ７０ | 騒々しい街頭<br>電話のベル<br>騒々しい事務所内 |
| ６０ | 静かな街頭<br>静かな乗用車内<br>普通の会話 |

# グローバル・ホークと他の航空機との比較

| 機種名 | グローバル・ホーク<br> | MQ-4<br> | MQ-9<br> | F-15<br> |
|---|---|---|---|---|
| 全幅 | 約40m | 約40m | 約20m | 約13m |
| 全長 | 約15m | 約15m | 約11m | 約19m |
| 全高 | 約5m | 約5m | 約4m | 約6m |
| 最大離陸重量 | 約12t | 約15t | 約5t | 約31t |
| 運用速度 | 約570km/h | 約590km/h | 約330km/h | 約3,000km/h |
| 航続距離 | 約23,000km | 約15,000km | 約8,500km | 約5,700km |
| 滞空時間 | 約36時間 | 約30時間 | 約30時間 | 約5時間 |
| 運用高度 | 約15,000～20,000m | 約15,000～17,000m | ～約15,200m | ～約19,800m |
| 離着陸時騒音 | 70dB台※１ | 70dB台※２ | 約75dB※３ | 約109dB※４ |
| 初飛行 | 1998年 | 2013年 | 2001年 | 1972年 |

※１　航空自衛隊グローバル・ホークの騒音値（最大騒音レベル）を三沢飛行場の滑走路の西側の端に設置している航空機騒音自動測定装置により測定
※２　昨年、嘉手納飛行場で展開した際に沖縄防衛局が設置した航空機騒音自動測定装置により測定
※３　同型機であるＭＱ－９Ｂの実測値
※４　平成１９年那覇防衛施設局（当時）が計測

資料源：Jane's Unmanned Aerial Vehicles and Targets Issue37、米空軍FACTSHEET、General Atomics Aeronautical System社パンフレット、 Northrop Grumman社パンフレット 、FAA Advisory Circular 36-3H 05/25/2012　等

# 無人機のサイズ比較